

決意

～二十一世紀に生きる君たちへ～

校長 五十嵐 圭一

明けましておめでとうございます。昨年は、保護者、地域の皆様には、本校の教育活動に対し多大なるご支援、ご協力をいただき誠にありがとうございました。本年も、学校教育目標「溢れる英知 輝く笑顔」の実現に向け全力で取り組みたいと考えております。よろしく願いいたします。

さて、この時期、「一年の計は元旦にあり」という言葉をよく耳にします。その意味は、一年間の計画は、元旦（元日）に立てるのがよいということですが、転じて、何事も最初に計画を立て、新たな決意をもって取り組むことが大切であるという意味になります。

本校では、卒業式に式歌として、「決意 ～二十一世紀に生きる君たちへ～」を卒業生が合唱します。この曲の歌詞は、次のようなものです。

**あなたの声に耳を澄まし
あなたの心にほとばしる愛を知る
歴史を愛し、自然を敬い
他人に優しく、自分に厳しかったあなた
先を歩いていったあなたの後ろ姿に
人間としてのあるべき生き方を学ぶ
今私たちはあなたの残したものを受け継いで
未来への一步を踏み出す
みどりの地球にあまねく、平和と幸せを届けるために**



【新年の桜木中学校】

この曲は、副題に～二十一世紀に生きる君たちへ～と掲げられているように、歴史作家 司馬遼太郎さんが子どもたちに向けて書いた随筆（エッセイ）に基づくメッセージソングです。司馬遼太郎さんはその中で、自己の確立について次のように述べています。

**君たちは、いつの時代もそうであったように、自己を確立せねばならない。
自分に厳しく、相手にはやさしく、という自己を。そして、すなおでかしい自己を。二十一世紀においては、特にそのことが重要である。
二十一世紀にあっては、科学と技術がもっと発達するだろう。科学・技術が、洪水のように人間をのみこんでしまってはならない。川の水を正しく流すように、君たちのしっかりした自己が、科学と技術を支配し、よい方向に持って行ってほしいのである。**

司馬遼太郎さんは、21世紀を待つことなく、1996年に他界しましたが、今の社会状況を予測したかのような、とても含蓄のある文章です。

令和2年は、東京オリンピック・パラリンピックが実施されるなど、時代の大きな転換期になることが予想されます。生徒の皆さん、目標は人それぞれ違うと思いますが、皆さんはどのような「決意」をもって令和2年を歩んでいきますか。年頭に当たり、ゆっくりと考えてみるのもよいと思います。

改めて、本年が、生徒、保護者、地域の皆様にとって最良の年となりますよう、心からお祈りいたします。